

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	吉松行・姉：短歌
Author(s)	椎屋，武雄
Citation	龍南， 2 5 0： 4 6 - 4 7
Issue date	1942-02-15
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/8490">http://hdl.handle.net/2298/8490</a>
Right	

文三甲二 森 川 有 祥

意 欲

あけくれやま輝きてぞ秘めくし焰とたてむ意の尖鋭化す

わくらばに

ひたすらに向ふ心は一つなり躊躇ひて自らを嘲る日もあらなくに

驚の眼聞けば雨脚の音迫り寄せたる夜氣の鋭さ

秋 深 し

桐の葉の黄に染みたるがいくひらも澄みたる空にはつかに揺るゝ

廢院の籬にしだれる楓葉の黝み紅葉は寂しきいろかも

理二乙 椎 屋 武 雄

吉 松 行

桑枝にもづの貫きたる雨蛙の骸はあはれにひからび居るも

田の中を朝を行けばしらぐと霧流れ來て頬にさやれり

姉

我が家より毛絲のジャケツ届きたり夜こめて編みし姉がたまもの

激して父と人生を論ず

吾が部屋にかへりてをれば母に言ふ父が聲きこゆ老い給ひたる  
瘵れ病む父にやさしき言葉ひとつ言へざる我の性を憎むも

汽車の中にて

アメリカにおのが築きし富も家も見捨てゝ歸り來し人老いにけり

故郷に近づきたりし喜びも面には見えす老佗びてをり

友訪へば厳しき運命次ぎくゝて養家の倉に醬油造れり

南の洋乗り越えて東亞開放の日本男子の雄叫轟け

文三甲二 細川 清 春